

“Quo vadis? The local government in Turkey after public management reforms”

「どこへ行くのか? : 行政改革以降のトルコにおける地方政府」

Evrin Tan

Abstract

2000年代、トルコはNPMの諸原則に従って、より地方分権化したシステムを目指して、自らの行政システムの改革を行ってきた。この改革の過程において、当初の目標として、より分権的かつ効率的な行政管理システムの達成が設定されていた。しかし、実証的なデータ及び公的統計は、その目標が本当に実現されうるものなのか否かに関する疑問を生じさせる。

本論文では、地方政府における立法、地方のガバナンスに対する中央政府の裁量、及び公共ガバナンスにおける地方政府の地位の変化を分析することで、公正発展党政権下でのトルコにおける地方政府システムの発展を示している。

Points for practitioners

トルコにおける公共管理改革の経験は、ナポレオン国家の伝統を有する国々におけるNPM型改革のパターンに類似している。これらの国々と同様に、参加の要素よりも管理の実践を強調することが、公共サービスの効率性及び有効性の改善において広く普及している。

しかし、トルコの事例を研究した結果は、地方の民主的なガバナンスを向上することなく、管理上の改革のみを行うことで、公共サービスの効率性及び有効性を改善できるという命題に反論するものとなっている。